

## 君津中央病院を受診された患者さまへ

当院では下記の臨床研究を実施しております。

この研究の対象者に該当する可能性のある方で、診療情報等を研究目的に利用又は提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にご連絡ください。

研究課題名	逐次近似再構成 CT 画像が Deformable Image Registration を利用した自動輪郭描出に及ぼす影響（倫理委員会承認番号：609）
当院の研究責任者 （所属）	細金 洋太郎（放射線技術科）
他の研究機関及び 各施設の研究責任者	なし
本研究の目的	リニアック室の放射線治療計画用 CT による被ばくを低減させるため、逐次近似再構成を用いた撮影プロトコルの作成を検討しています。逐次近似再構成法は従来の再構成法と比べ線量低減した際のノイズ低減が期待できる一方、治療計画への影響が懸念されます。そこで本研究では逐次近似再構成がアトラスベースを用いた Deformable Image Registration（DIR）による自動輪郭描出に与える影響について検討しました。
調査データの 該当期間	2021年1月～2021年5月
研究の方法 （対象となる方）	乳房温存療法で放射線治療された患者様（40歳～70歳）
研究の方法 （使用する情報）	放射線治療計画用 CT（Somatom Confidence）を撮影し、治療計画作成を行った患者様（女性：40歳～70歳）10名の CT-Image と RT-structure から治療計画支援装置（MIM Maestro）により臓器輪郭（心臓、肺、脊髄）のアトラスベースを作成しました。同じく治療計画作成を行った女性患者（女性：40歳～70歳）5名の放射線治療計画用 CT により逐次近似再構成画像（強度 1～5）を作成し、従来再構成法画像と作成したアトラスベースから臓器輪郭（心

	臓、肺、脊髄)のDIRを利用した自動描出を行い、逐次近似再構成画像と従来再構成法画像の自動輪郭描出の一致度をダイス係数により算出・検証しました。
資料・情報の他機関への提供	2021年秋に学会で公表される予定です。
個人情報の取扱い	臨床画像データ取扱いには患者の個人情報保護を徹底し、公表する際は患者を特定できる情報を使用しません。また、目的以外に患者の個人情報は使用しません。
本研究の資金源 (利益相反)	利益相反はありません
お問い合わせ先	リニアック室(内線:2402)
備考	